

令和5年度第3学期始業式学校長式辞

令和6年の年明けは、コロナ感染症も落ち着き、明るく未来に満ちた時になる！と静かにこの年を迎えたことを記憶しています。1月1日夕方、震度7、6の能登半島地震が発生し、津波、家屋の倒壊、そして火災などにより多くの命が失われることとなり、現在も多くの人が安否の確認ができていないと状況です。またその被災地に少しでも早く物資を届けようとした輸送機が接触事故のため、これもまた自分の使命を自覚し精一杯を尽くそうとした人たちが亡くなってしまいました。私はその地域に思いを寄せ、募金やほんのわずかな祈りを捧げるしかない自分に歯がゆい気持ちがあります。命を失った人たちに、心からのご冥福をお祈りするとともに、少しでも多くの人が見つかり生きていて欲しいと言う思いになっています。私は今回の地震によって、災害や事故は時間や時期や場所等には容赦なく襲ってくるものだということを改めて思い知らされることとなりました。今一度、震災の恐ろしさを認識しなおするとともに、自分や家族や仲間の命を救えるのは、まず自分しかないのだと言う自覚を持つ必要があると考えました。

何回やっても構わないから相談と点検をし続けてほしいのです。地震の際には家族の人とどこで落ち合うのか、家の非常食は、備えはどうか、倒れて、動いてくる家具や危険な箇所は無いのか、隣近所のおじいちゃんやおばあちゃんはちゃんと対応できるか、一人一人が常に思い起こして過ごしていく必要があると思います。皆も今一度考えよ。そして、今ある命を大切に生きよう！そんな決意を新たにした年明けであります。みんなもしっかり心構えを作りましょう。

今生きている私たちはしっかりと生きねばなりません。みんな若い、今年どんな1.01を歩み出そうと思っていますか？決意を新たにしてもらいたいと思います。3年生は進路に向けて2年生は土居中学校の中心になるため、1年生はいよいよ先輩になるための1歩を踏み出すと思います。

そんなみんなに年初めに非常変災への備えをするのだという話以外にもう一つだけ話をします。それは「心の物差しをしっかりと持て」ということです。「心の物差し」はなかなか見えません。どんなものかと言われたらなかなか思いつきませんね。人間は行動をしようと思うとき、または、行動を選ぶときには、この心の物差しをもとに選んでいる。勉強をもう少し頑張るのか明日に延ばすのか。今日の練習を少し頑張るのか少し楽をするのか。今は体調が悪いのでゆっくりするか少し頑張ってしまうのか。そんなふう「心の物差し」は、その都度、都度の行動を決めています。また土居中魂とくっついている「心の物差し」は、この言葉は相手に刃となって突き刺さっていないか。この言葉は相手を笑顔にそして自分を笑顔にしていくのか。この行動は相手を傷つけることになっていないのか。その選択を間違わないようになる「心の物差し」です。これは土居中学校の学びをしっかりと続けていけば、この「物差し」がしっかりと輝いて自分の言葉や行動を決めてくれるそう思っています。

みんなは人を笑顔に自分を笑顔にしていくような「心の物差し」を土居中の学びの中で持ち始めていると感じています。それを目一杯磨いて、今以上に輝かせてもらいたいと思います。そのためには毎日の学びや毎日の言動が本当に大事になります。それを大切にされたおかげで、昨年度はたくさんの結果をみんなは残してくれました。私は土居中学校は今、大きな上昇の波に乗ってきていると思っています。伸びてきている。だから、みんなには毎日1.01の努力は変わらず一つ一つのことを丁寧に大切にってもらいたいと思います。ぜひ一人一人が輝く心の物差しを手に入れて、まずはそれぞれの学年をしっかりとやり切り、まとめてほしい。そんなふう思います。2024年龍の如く舞い上がり、光を掴む。そんなみんなに、そんな土居中にしてまいりましょう。

土居中学校校長 合田泰之